

ガダルカナル島沈没輸送船の探索と慰霊について(お知らせ)



同島のアメリカ軍との陸上戦闘は、太平洋戦争で天王山と目されたもので、両国軍は死力を尽くした激闘で 1942 年 8 月より始まり、日本軍部隊(部隊名と編成地)は、以下の兵力を動員し、飛行場奪回作戦を実行しました。

①旭川第 7 師団一木支隊:一木大佐[歩兵 28 連隊が基幹。先遣隊として初めて同島上陸 2597 名内 2367 名戦死] ②福岡第 18 師団川口支隊:川口少将[歩兵第 35 旅団・歩兵 124 連隊] ③仙台第 2 師団:丸山中将[歩兵 4 連隊(仙台)・歩兵 16 連隊(新発田)・歩兵 19 連隊(仙台)・歩兵 29 連隊(会津若松)・独立山砲兵 28 連隊(仙台)] ④名古屋第 38 師団:佐野中将[歩兵 288 連隊(名古屋)・歩兵

229 連隊(岐阜)・歩兵 230 連隊(静岡・岐阜)・野戦高射 38 大隊] ⑤海軍地上部隊 呉第三特別陸戦隊・横須賀第 5 特別陸戦隊 等

このガダルカナル島陸上戦闘で投入された兵力は約 32,000 人で、内 21,000 人が亡くなりました。[戦死 14,550 人・病死(ほとんど餓死)4300 人・行方不明 2350 人]

海軍側は戦艦比叡を始め 24 隻(13 万 5000 トン)が沈没。航空機 900 機喪失し、第一線航空機搭乗員 2400 人近くが戦死したと言われています。

以上のように、多大な犠牲者を出し 1943 年 2 月日本軍は撤退しました。



(空爆される輸送船)

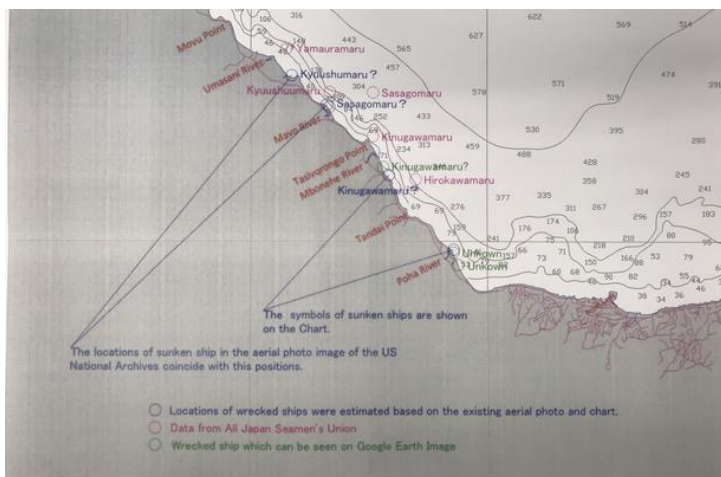
これら日本軍部隊に、食糧、弾薬などの補給を行うべく、多数輸送船が動員され、ガダルカナル島タサファロング・ルンガ付近の海岸沖周辺海域で多くの輸送船が米軍の空襲などで戦没しました。探索範囲であるタサファロング附近海岸沖で、第一次、第二次強行輸送などで**戦没輸送船 13 隻**の情報が以下にあり(実際は 20 隻近くとされています。)これら**輸送船を探索(海岸から水深 100m 内)し、慰霊**を行います。

船名(所属) 死者数

- ・鬼怒川丸(東洋海運) 上陸船員多数
- ・山月丸(山下汽船) 船員 43 名
- ・ぶりすべん丸(大阪商船) 船砲隊 17 名 船員 5 名
- ・山浦丸(山下汽船) 船員 45 名
- ・那古丸(日本郵船) 船砲隊 22 名
- ・信濃川丸(東洋海運) 船砲隊 1 名 乗船部隊若干名 船員 3 名
- ・かんべら丸(大阪商船) 乗船部隊 75 名 船砲隊 21 名 船員 4 名
- ・長良丸(日本郵船) 乗船部隊 38 名
- ・ありぞな丸(大阪商船) 乗船部隊兵 10 名 船砲隊 4 名 信号兵 1 名 船員 1 名
- ・笹子丸(日本郵船) 船員 31 名 船砲隊若干名
- ・九州丸(原田汽船) 乗船兵 33 名 船砲隊 2 名 海兵 1 名 船員 13 名
- ・吾妻山丸(三井船舶) 船員 3 名
- ・宏川丸(川崎汽船) 陸上に揚った船員多数

戦没した船と海員の資料館 を参照。 <http://www.jsu.or.jp>

探索と慰霊は、特定非営利活動法人のアジア太平洋英霊顕彰会が 2019 年 5 月 30
～6 月 1 の間で実施します。探索支援を(株)アーク・ジオ・サポート(AGS)が行います。
〒151-0071 東京都渋谷区本町 2-18-14 ブラックサビル 1F



TEL 03-5304-7899

URL: <http://Aprha.net/>

(探索範囲)

(現在の海岸)

